

事例

地域の連携による食育推進活動～食でつながる みんなのさばえ～
(第3回食育活動表彰 農林水産大臣賞受賞)

元気さばえ食育推進会議（福井県）

「元気さばえ食育推進会議」は、「食でつながる みんなのさばえ」を基本理念に、鯖江市の食育推進計画「元気さばえ食育推進プラン」を踏まえ、食に関わる各種団体や個人が連携して鯖江市の食育を総合的に推進することを目的として、平成23(2011)年7月に結成されました。消費生活アドバイザーや学校・保育所関係者、料理店や菓子店、農家、JA、野菜ソムリエ等、市内在住の各委員と行政が連携して、包括的な体制で成長過程にある子供たちへの食育や、若い世代への情報発信を中心に食育事業の推進に取り組んでいます。

取組のうち、学校給食畑活動では、児童が農家ボランティアの指導の下、学校の授業と連携した野菜の植付けや収穫体験を行います。また、「地場産学校給食の日」等に農家ボランティアと一緒に給食を食べ、感謝の気持ちを伝え、交流しています。

さらに、市内の全小学校において、栄養教諭が各委員とのつなぎ役となり、様々な体験を取り入れた食育授業も開催しています。授業では、講師が鯖江産の食材を実際に持ち込み、児童に間近で見えてもらいます。自分たちが暮らしているまちでは、どのようなものが収穫できるのか、児童がふるさつを知り、郷土愛を育むことにつながるよう工夫しています。低学年では地場産食材で菓子を作る「お菓子の授業」、中学年では五味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）について学ぶ「味覚の授業」、高学年では和食や出汁について学ぶ「うま味の授業」を行っています。普段の授業とは違った体験型の取組を行うことで子供の記憶に残るようにするとともに、家庭での会話を通じた食育にもつながるようにしています。また、市内の全小学校で、鯖江市の地場産業である越前漆器を給食用食器として取り入れています。



「高校生カフェ」での調理



学校給食畑での農業体験



「うま味の授業」

さらに、小中学校での食育の取組を、義務教育が終了した高校生にもつなげていくため、市内の高校と連携し、高校生に対する食育も推進しています。高校生自らが農家の指導の下、農作業を行い、収穫した農産物を使用した献立を作成し、実際の飲食店で提供する「高校生カフェ」の取組等を通して、食への意識や関心を高めています。

第4章

食育推進運動の展開